



記念館だより

2020年9月

「9月に想う」

加藤 輝勢子

短かった夏休みもあっという間に終わりました。いつもなら、夏休みが始まってすぐに群馬県の鬼石にサマーキャンプに行っていました。今年はコロナの影響で多くの行事ができなく、何かメリハリをつけるのが難しいです。そして季節は秋、9月になりました。

本所賀川記念館にとって、9月というのは大きな意味を持ちます。それは1923年9月1日、東京南方100kmの相模湾海底を震源とするマグニチュード7.9の大地震が発生、関東大震災です。その被害は甚大でした。本所賀川記念館の創始者である賀川豊彦は関東大震災の折、神戸より来て、震災の被害が一番大きい所に入って、救援活動をした人でした。被害を受けた方のために何が必要で、どんな助けをすることでよいかを調べ、本当によく実践してくださいました。その志を受け継いで活動をしているのが、本所賀川記念館、光の園保育学校、東駒形教会、中ノ郷信用組合、もっと大きく言うと生協、農協などがあります。どの法人・事業所も自分たちだけがよくなれば良いというのではなく、人と神と地域のために仕えること、利用者にとって、何が必要か、そのために私たちはどんなこと

ができるかをいつも考えて活動をしています。

7月の長い梅雨が明け、8月の猛暑、酷暑でコロナ禍にあって、さらに熱中症の危険があります。また、局所的な集中豪雨があり、日本の各地で大きな被害が出ています。世界的にもそうです。地球温暖化の影響で海面温度が上昇し、気候が亜熱帯化しつつあり、毎年のように自然災害がとて多くなりました。

本所賀川記念館では3者が協力して記念館大バザーを11月にしていました。そして益金を救援支援のために被害に遭われた方々、特に子どもの施設に贈っておりました。今年はコロナ禍にあり、バザーの開催は難しいですが、何か違った形でできることを願っております。

戦争の時も、自然災害の時も、そして感染症が蔓延するときも私たちは困難な状況に置かれますが、共に手を取り、協力し合い、相手を思いやり、非難するのではなく、励ましあうことが大切に思います。2学期が始まっています。一人一人の日々の生活、健康が守られることを願っています。

巨大シャボン玉



学童クラブ

ドミノ倒しスペシャル



ダイラタンシ



3週間の夏休みはあっという間に過ぎていきました。今年は、今までにない遊びをたくさん楽しみました。遊びを通して自身が感じたのは、子どもの「やってみよう！」という力は無限になるということです。同じものを作ってもみんな少しずつ違ったものになったり、お友だちを見てアイデアが更に浮かんだり、私たち大人が思い浮かばないようなことも生み出したり！いつもとは違った楽しみ方が出来た夏休みになりました。



泥だんご作

モコモコ泡遊び



記念館トピック

【賀川研究】

今年度からは『四十年の恵み～本所基督教産業青年会・日本基督教団東駒形教会四十年史』をテキストに読み進めていきます。

9/10(木) 19:00～

本所賀川記念館3F ホール

コスモス会

コロナウイルス感染防止のため、3か月お休みしていた配食ですが、感染対策をより強化して7月から再開しました。他区他県からのボランティアさんはまだお休みです。

この配食活動は1975(昭和50)年以來45年続いています。約20名のボランティアさんが4グループに分かれて、今週末も地域の一人暮らし世帯やご高齢世帯に温かいお弁当をお届けします。今週末もお楽しみに！(針谷)

美術教室

9月は全てお休みになります。

10/14(水)から再開予定です。



ピアノ教室

毎週月曜日

講師：土屋 紘枝先生

